

宮城県名取北高等学校

奉仕活動部

高校生ボランティア・アワード2018

被災地に暮らす 高校生のボランティア活動

私たち奉仕活動部のモットー

- (1) 何気ない日々の暮らしに感謝する。
- (2) 日々の暮らしを支えるボランティア活動を行う。
- (3) 地域の人と関わり、地域のことを知り、地域のために汗を流す。

活動の概要(2017年度～現在)

- ◆名取市増田児童センター(子どもたちの遊び相手)
 - ◆名取市サービスセンター「青松苑」(入浴後の髪の乾燥・お話し相手)
 - ◆配食サービスボランティア(一人暮らしの高齢者宅へのお弁当配達)
 - ◆盲導犬ふれあい募金活動(盲導犬育成のための街頭募金)
 - ◆第33回仙台・青葉まつり助っ人隊(祭連の誘導・交通規制・エコステーション等)
 - ◆第1回東北・みやぎ復興マラソン2017(給水所スタッフ)
 - ◆赤い羽根共同募金活動(イオンモール名取での街頭募金)
 - ◆北高祭チャリティ模擬店(収益の全額を日本ユニセフへ募金)
- 「We Support UNICEF賞」受賞！
などなど



増田児童センター



第1回東北みやぎ復興マラソン



海岸林再生プロジェクト(植樹祭)



北高祭チャリティ模擬店

災害から命を守る！ そして未来へ...

2011年3月11日、午後2時46分。仙台市の東方沖、太平洋の海底を震源とするM9.0の巨大地震が発生しました。この地震により、波高10m以上にも上る巨大津波が発生し、東日本の太平洋沿岸部は壊滅的な被害を受けました。亡くなられた方 15894人、行方不明になった方 2546人。そして今もなお7万人を超える多くの方々が避難生活を送っています。当時私たちは小学生でした。何かの役に立ちたいという思いはあっても、小学生にできることは限られていました。そのような思いを抱えながら高校に入学し、今、この奉仕活動部で、微力ではありますが

「命」「ふるさと」「未来」を守る

活動にも力を入れています。それが

海岸林再生プロジェクト「植樹祭」 「防災ワークショップ」

海岸林再生プロジェクト10カ年計画

2011年3月11日、名取市沿岸部に押し寄せた津波は海岸のクロマツをなぎ倒しました。これまで海の潮や風から地域の暮らしを守っていたクロマツも巨大津波にはかないませんでした。名取市を含む宮城県南部沿岸部は、伊達政宗公の治世の時代に農地開墾されるのに合わせて、海岸林を造成した歴史があります。以降40年にわたり、枯れても植え直しながら代々守り続け、その後背地は一大農産地となり小松菜やチンゲンサイ、米などを生産してきました。

名取市では民間の方で海岸林を再生させたいという公益財団法人オイスカの提案を受け、公共事業や公的資金に頼るのではなく、地元の被災農家の技術や一般市民の思いを活かしながら再生する道を選択しました。

地元の農家30名が「名取市海岸林再生の会」を組織し、播種、育苗を行っています。また、植栽、育林には地元の森林組合が担っています。

このプロジェクトは名取市すべての海岸林の再生を担い、関上地区～仙台空港付近まで全長5kmにおよぶ100haに50万本の苗木の植栽を行う計画です。育林の経費も含め、総額10億円の資金が必要となります。

私たちの名取北高校では奉仕活動部が中心となり、このプロジェクトの支援を学校内で広めてきました。5月に行われる「植樹祭」への参加は年々増え、今年は約140名の生徒が活動する予定です。ただし、木は植えれば後は自然に育つというのではなく、植えた時点がスタートです。木の生長は植栽後何十年と続き、その間、下草を刈ったり、調整のための伐採を行ったりと人手と費用が必要になります。私たち奉仕活動部はこれからも継続的に活動し、私たちの子どもや孫の世代まで守ってくれるこのクロマツを大切に育てていきたいと思っています。



大雨防災ワークショップ

<平成6年9月洪水>

1994年9月22日から23日にかけて、三陸沖に張り出したオホーツク海高気圧から吹き出した湿った冷たい東風の影響と、上空約5000メートルにかなり冷たい寒気(-14.9℃)を伴った日本海の寒冷低気圧の影響で、大気の状態が非常に不安定となりました。

このため活発な対流雲が発達し、断続的に雷を伴う激しい雨が降り続けました。この激しい雨の区域は気圧の谷が三陸沖の高気圧の影響で北上を抑えられ停滞したため、岩沼市、名取市を中心に断続的に激しい雨が降り続けました。

仙台都市圏の東部低平地を襲った集中豪雨は、増田川、五間堀川、川内沢川における越水や破堤により、名取・岩沼両市を中心に河川及び道路等の公共土木施設、住宅浸水、農作物被害など総額246億円に及ぶ甚大な被害をもたらしました。

宮城県においては、降雨量は仙台空港で総雨量515mmに達し、増田川上流の樽水ダムにおいても約180年に一度というダム計画を越える総雨量477mmを記録したため、ダムが洪水調節機能を失い、下流域の災害を増大させる結果となりました。

この「平成6年9月洪水」のような大雨による被害を想定して、私たち名取北高校では仙台管区気象台が開発したプログラムをもとに、近隣の小中高で連携し、「大雨防災ワークショップ」を開催しています。私たち奉仕活動部員も、地域を守る防災リーダーを目指してこの活動に参加しています。

ワークショップでは名取市内のある地域を想定し、家族構成や住居の構造などの諸条件を考慮しながら、命を守るためにどのような行動をとれば良いのか、小学生、中学生、高校生の混成グループ内で熱い意見が交わされます。いつか必ず来る自然の猛威から、大切な命を守ることができるよう、正しい知識や適切な判断力を身につけたいと思います。



ありがとうの気持ちを世界へ

東日本大震災では海外からもたくさんの支援をいただきました。そのお返しの意味も込めて今後は国際交流にも力を入れていきたいと考えています。現在は募金活動が中心ですが、将来的にはお互いに顔が見えるような国際交流活動を展開していきたいと考えています。具体的には教材などを必要としている国々へ送る支援を考えています。



赤い羽根共同募金活動(イオンモール名取)にて

奉仕活動部プロフィール

宮城県名取北高等学校奉仕活動部は部員39名で上記のモットーをもとに、一人一人が向上心を持って、地域に根ざした活動を行っています。学校の外に出てさまざまな方々とふれあいながら、学校では学べない多くのことを学び自らの成長の糧にしています。被災地の復興は私たち若い世代が日々生き生きと活躍することによって進んでいくものと考えています。これから「私たちにできること」を一つ一つ積み重ね、被災地の未来を切り拓いていきたいと思っています。